

仕事も趣味も充実した暮らしを続けたい長州源一郎さん(40代後半・男性)の支援

【事例概要と今回討議する場面設定】

ー以前(2年前まで)ー

5年ほど前より、A相談支援センターでは、主に就労(再就職)にむけての関わりがあった。

その中で、2年前に就職。安定して働き続けられるようになった。その頃、本人より「一度卒業したい。」との希望が表明されたことや、家族からは「あまり家の中に立ち回ってほしくない」様子が強く窺えたことから、担当者は就労以外の面が気になりつつも「何かあったらまた遠慮なく相談に来て」と一旦支援を終結していた。

ー再開(2ヶ月前)ー

2ヶ月前、本人が父母に連れられる格好で来所。

父母は困った様子で「もう息子と一緒に暮らせない。自分たちは半年後を目途に田舎に帰る。息子(源一郎)は施設に入りたい。」「最近、お金の無心がひどい。拒否すると、執拗に要求したり、物に当たったりするようになってきた。自分たちに手を挙げることはないが、体が大きいので怖い。」と訴える。

本人は言葉を発せず、うつむいたままである。

以前の担当者は退職しており、今回話を聴いた相談員は、まだ状況も経緯も詳細をつかめていない。

相談員は、「また一緒に考えていきましょう。何度かお会いして話をお聞きしたい。」と提案し、同意を得た。

ー再開後ー

相談員は、週に1～2回程度、仕事帰りにセンターに寄ってもらったり、自宅の最寄り駅近くのファーストフード店で待ち合わせたりしながら本人との話を重ねた。また両親や姉にも、自宅を訪問するなどしながら話を聞いていった。

ー再開から2ヶ月後(今回の演習の現時点)ー

情報も少しずつ集まり、本人や家族の意向もわかってきた。

本人は、「お金使うなと言われる。けど、そんなに使ってるのかな。」「足りなくなったらもらってるだけなんです。今まで通り。」「Suicaだと大丈夫です。けど、使えないところもあるんです。おもちゃ屋とか定食屋とか。」「なんでくれる時とくれない時があるのかな。変だよね。僕のお金なのに。」「お父さんお母さん沖縄に帰りたいみたい。ほんとと一緒に暮らしたいけど……。ついてはいけない。50歳までに独立しなくちゃと思ってた。」「でもまだよくわかんないです。ひとり暮らし大変ですよ。自信ないな……。」

父母の発言の真意は、「沖縄に年の離れた兄弟が暮らしているが、だいぶ弱ってきた。『助けてほしい』と言われ、なんとかしてやりたいと思っている。自分たちも定年後は生まれ育った故郷に帰りたい気持ちがずっとあった。帰ればなんとかなる土地だ。決意は固い。娘(源一郎の姉)も理解してくれている。しかし、源一郎が心配。甘やかしてきたので家のことは何もできない。かといって、家にあの子を連れて帰るわけにもいかない。故郷の村の近くの施設に入れるのが一番とも思う。だが、本人は今の仕事を頑張っているし、この町で育ってきたから、田舎に行く想像はできないと思う。本人もそんなことを言っている。でも、ひとり暮らしはあの子には無理だと思うし、そうになったら自分たちは安心して死ねない。福祉のことは避けてきたので全くわからないけれど、このあたりの施設で安心して暮らせて、今までに近いような暮らしができるころはないんですかね。」とのこと。

源一郎さんの姉は、「自分は家庭があって、子どもが3人いてまだ手もお金もかかる。他県に住んでいるが家もローンがまだまだある。できることは協力してやりたいが、むずかしいことも多いと思う。」という。

関わりの中で本人や家族の頭の中は(少し)整理され、ゴール設定もできてきた。

そのため意向や情報を整理し、どのような提案をするか考える時期と担当相談支援専門員は判断した。

そこで、所内の検討会議に提出し、アセスメントと今後の方向性の検討を自分だけではなく、相談支援専門員全員で行おうと考えた。

事 例 の 概 要

事例タイトル	仕事も趣味も充実した暮らしを続けたい40代後半の男性の支援
年齢・性別・家族構成・ 現在の地域の居住歴	長州源一郎 さん 年齢（ 47 ） 歳・性別（ 男 ） ・ 女 ） 家族構成（ 父77歳／母74歳：同居 ／ 姉は結婚し、他県在住：別居 ） 現在の地域の居住歴 47年
手帳の種類と等級	療育手帳B(中度)
障害支援区分	未調査
生活歴及び病歴	<p>【生活歴】 ○○市で出生。幼稚園から小学校では当初通常学級に在籍するが、4年次に勉強についてゆけなくなり、特殊学級に移る。中学校は、特殊学級に在籍し、楽しい学校生活を送った。いじめも多少は受けたが、ひどくはなかった。</p> <p>中学卒業後すぐ食品機械の部品製作メーカーに就職。工場での金型プレスやバリ取り、製品の箱詰めの仕事に従事していた。30年ほど勤務していたが、工場が海外移転することになり、人員整理で解雇となる。その後、失業給付を受けながらハローワークに通い、再就職を目指していたがうまくいかないことが続いた。</p> <p>失業保険の終期も見えてきた頃、たまたま街で出会った中学時代の同級生が就業・生活支援センターの支援を受けていることを知り、自分も相談できないかと相談したことから福祉の支援とつながる。連戦連敗の就職活動に落ち込んでいたり、新しい職種への挑戦に恐怖感があったことから、就労移行支援を使うこととなった。また、この時期に成人判定を行わなかった療育手帳の再取得や障害年金の申請などを行う中で、相談支援事業所の支援も開始される。</p> <p>自信を取り戻した後は、現在の物流倉庫でのピッキングの仕事に就いて現在に至っている。就労も安定していることから、本人の希望もあり一旦終結していた。</p> <p>【病歴】 乳幼児期に数度てんかん発作があった。大人になってからはなし。</p>
相談に至る経緯	前頁参照
望んでいる暮らし、訴え、困っていること	(本人) 「仕事を続けたいです。」「プラレールや電車が好きです。」 「(将来と言われても)よくわかりません。50歳までに独立したいです。」 「(今の生活は)このままでいいです。」 (父母) 「私たちがいなくても、暮らせるようになってほしい。施設に入りたい。」 「(本人が大柄なため)最近執拗にお金を要求されることが頻回で怖い。」
本人や家族の問題	・ 本人はずっとお金の管理を父母にまかせ、必要な時必要な額をもらうやりかたをとってきた。ここ1年ほどプラレールなどにはまって、使う額が増えており、そのやりとりがうまくできていない。 ・ 父母の高齢化により、本人の今後の生活を考える転機を迎えている。
本人の能力や 環境的問題	・ ずっと親子での暮らしを続けてきたため、今後の親亡き後の生活のイメージがついていない。その必要性についても腑に落ちていない。 ・ 枠組みなくお金を使ってきたため、金銭管理能力ではなく、そもそもの金銭感覚に乏しい。
本人の趣味趣向、 楽しみ、長所	家庭内でも社会でも、慣れればできることが多い。就労等の大変と思われることも継続できる力がある。自分の思いが通らないと不機嫌になることもあるが、基本的にはおだやかで優しい性格（特に第三者に対しては）。
その他気が付いたこと	慣れた人や場所は全く問題ないが、未知のことについてはしり込みしがち。 好きなことや趣味は10代や20代から一貫している。同じことをルーティーンで続けることで飽きたりしない。 お金の使う額が増えたのは、新しい職場での趣味仲間の影響の様子。

【演習1】

一次アセスメント票

受付No.	作成者氏名	作成日
0001	藤川 雄一	2018年11月18日

ふりがな	ちょうしゅう げんいちろう	性別	男性	住所	(〒000-0000) 東京都〇〇市△▽ヶ丘1-2-3 都営住宅501
氏名	長州 源一郎	年齢	47 歳	連絡先	090-0000-0000
生年月日	1971年11月11日				
本人の要望・希望する暮らし、困っていること・解決したいこと 「仕事を続けたいです。」「プラレールや電車が好きです。」 「(将来と言われても)よくわかりません。」「(今の生活は)このままでいいです。」					
家族の要望・希望する暮らし、困っていること・解決したいこと 「私たちがいなくても、姉に迷惑をかけず暮らせるようになってほしい。」 「(本人が大柄なため)最近、執拗に何かを要求されると怖い。」					
希望する一日の流れ					
本人	起床	通勤	仕事	通勤	夕食
平日	6	9	12	15	18
休日	6	9	12	15	18
生活状況[普通の1日の流れ]					
本人	起床	通勤	仕事	通勤	夕食
平日	6	9	12	15	18
休日	6	9	12	15	18
[その他の1日の生活の流れ] ※いくつかの1日の生活があれば、別紙に記入					
本人					
	6	9	12	15	18
	21	24	3		
本人の概要					
生活歴(病歴含む)	<div>〇〇市立〇小学校入学(普通級)</div> <div>特殊学級へ</div> <div>〇〇市立〇中学校(特殊学級)</div> <div>中学卒業後、部品製作工場に就職</div> <div>工場の海外移転による</div> <div>手帳取得・就労移行利用・年金受給</div> <div>現在の会社に就職</div>				
[ジェノグラム]			[エコマップ]		

利用者の状況

項 目	状況・意思			支援者の気づき	
	現状	本人の希望	本人の選好	記入者	記入者以外 (専門的アセスメントを含む)

1 生活基盤・日常生活に関する領域

住環境	高齢世帯向け都営住宅(本人単身では居住できない)	「10年くらい前に近くの公団から引っ越ししました。」 「〇〇市は良いですね。」	慣れているところでは落ち着いて自分でできることが多い。	東京郊外で新宿まで電車で40分のニュータウン。父母と同世代の住人が多い。昔からの商店街やスーパーがある。	
経済環境	月給手取 100,000円 障害厚生年金受給貯金もある様子 父母とも共済年金			経済的には余裕があるほうだが、使いすぎてしまう場合がある様子。	

2 社会参加に関する領域（教育、就労を含む）

趣味・旅行・レクリエーション	休みの日はプラレールの電車を走らせに行く。 本物の電車も好きで、よく電車に乗って出かける。 前の職場の人達と年に数回飲み会や旅行に出かける。	「プラレールを走らせるおもちゃ屋があるんですよ。」 「電車に乗りに行く旅が好きです。」 「やっぱりJRですね。」 「家ではテレビと雑誌です。」	テレビはBSの音楽番組や旅行番組をよく見ている様子。		「昔から電車は好きですね。好きなことはしつこいくらい調べて話しかけてくるんですよ。」 「収集癖があると思います。物は捨てません。」 (姉)
当事者団体の活動	なし				
自治会への参加	なし				
その他各種社会的活動					
就労	現在は、倉庫のピッキングの仕事をしています。	「仕事はずっと続けたいです。」			自分の役割をきちんとできている。新しいことを覚えるのはとてもゆっくり。(会社) 以前の転職の際に職業評価に関わった。当時は自己肯定感が下がった状態であったが、それでも集中力や課題を完遂しようとする力があつた。定型的な作業については企業で十分就労できる力がある。(職業リハOT)

3 コミュニケーションや意思決定、社会生活技能に関する領域

意思表示	うまく言えないこともあるが、はっきり自分の意思を伝えようとする。 わからないことはわからないと言う。				
意思決定					
他者からの意思伝達の理解	言葉の場合、わかりやすい言葉を選ぶ必要がある。 独特の言葉のいいまわしをよく使う。				

コミュニケーション ツールの使用(電 話、FAX、パソコン、 タブレット、インター ネット)	スマートフォンをもっ ている。通話やメール、 電車関連などの 情報検索に利用し ている。 電話は苦手。出な かったり、用件だけ ですぐ切る。				
対人関係	慣れている人とはう まくやりとりできる。 言葉でのコミュニ ケーションは得意で はない。	「(言われていること が)わからないことが よくあります」 「友だちは欲しいけ ど、たまに疲れま す。」	やさしく接してくれる 年上を好む。 厳しい人や怖い人 は苦手。		
屋外移動やその手 段(長距離、遠距 離)	何度か行ったことの あるところには自力 でいける。	「方向音痴なんです よね。」	はっきりとは言わな いが、仕事帰りの寄 道が楽しみな様 子。		
金銭管理	必要になったときに 母から必要額をもら う。 日々のお金は Suica(定期とオート チャージ)。	「お札を出しておつ りをもらいます。」		基本はオートチャージの 交通系ICカードを多用。 必要な時に必要な額だけ もらうため、枠組みを理解 できていない。	金銭管理は難しい (以前の就労移行支 援事業所) 2桁の演算や繰上り などのある計算は難 しい。

4 日常生活に関する領域

身辺のこと	ADLは基本的に自 立している。				
調理	炊飯や簡単なフライ パン料理をすること がある。 自炊をすれば 支援が必要だが、あ る程度は自分ででき る。	「作ることもあります。 でも大変です。」	親がいない時調理 することもある。 基本的には外食か お惣菜。		
食事	たくさん食べる。ごは んはお替り3杯。	「ひとりだと好きなも の食べちゃいます ね」	こってりした食べもの ジュース	出されたものは何でも食 べるが、特にこってりした 味が濃いものが好き。	
入浴		「お風呂が好きで す。毎日入ります。」			お湯を使いすぎるこ とを母は心配に思っ ている。
清掃・整理整頓	自分の部屋はきっち りと整理されており、 他人にはあまり触れ られたくない。	「きれいですか？そ うかな？」 「自分の部屋以外の 掃除はしません。」			
洗濯	自分でしたことはな い。				
書類整理・事務手続 き	難しい漢字は苦手。 かみくだいて説明す ると理解できる。	「難しい書類はよく わかりません。手 伝ってくれる人がほ しいです。」	わからない書類など は父母に渡す。		
買い物	自分の必要なものは 自分で買うことがで きる。	「電車にはお金使っ ちゃいますね」「あと は食べ物です。」 「雑誌は決まったも のを買います。」			

5 健康に関する領域

体力	元気で体格がいい。 身長180cm 体重 100kg				
----	----------------------------------	--	--	--	--

健康状態	40過ぎから健康診断は毎年再検査。血圧が150を超える。	「大丈夫です。」			生活習慣病の傾向はみられるものの、治療や生活上の制限が必要な状況ではない。ただし、ひとり暮らしをするのであれば、偏った食生活にならないよう配慮してもらいたいが、一般的な成人男性であれば誰も追うリスク程度である。(健康診断時の内科医師所見)
医療機関利用状況	定期受診なし	「大丈夫です。」	病院があまり好きでない様子。		家族は心配しているが、うるさく言うと本人が怒り出すので黙っている。(就業・生活支援センター)
医療費・健康保険	社保加入				
障害	療育手帳B 自閉傾向あり				以前の転職の際、職業評価の一環として心理検査を行った。知能検査はWAISではなくWISCにて検査を実施。全IQは55。若干言語性・視覚優位。(職リハCP)

6 家族支援に関する領域

父母	まだ元気だが、持病があり、気力体力とも衰えがある。本人の願うことはだいたい叶えてきた。父母とも共働きの元公務員。定年退職後はシルバー人材センターで働いたり、地域活動に参加していたが最近はのんびり暮らしている。	「ほんとはお父さんお母さんとずっと暮らしたい。」 「でも沖縄は…。仕事辞めたくないです。」	親を大切だと思うような素振りはいたるところにみられる。	現在のところ介護は必要ない。 本人を思う気持ちが強く、先行きの不安がある。	
姉	隣県在住。夫と娘の3人暮らし。夫婦とも公務員。月に一度家族で家へ来る。	「お姉さんとはたまに会います。」 「お姉さんは怒るところです。」		兄弟仲はごく普通。会えば話すが、共通の話題がありませんので長くは話さない。	
姪	大学3年生。鉄道好きで、本人と話が合う。子どもの頃から本人へおねだりするのが上手。		姪と会うのを楽しみにしている。		

対応者所見のまとめ

(事例の概要を参照)